

YWVOB会 会報 No.17

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

2000年8月6日発行

第1章 苗名小屋特集

OB小屋委員長 30期 笹倉 実

～OB小屋委員会の活動報告と計画～

OB小屋委員会は昨年11月の総会で正式発足と本年度事業計画が承認され、これに沿って初年度の活動を進めております。最近の活動内容と今後の計画を簡単に説明いたします。

1. 小屋除雪活動の実施

多雪期の2月に、現役部員が試験期間であり活動を行えないこともあり、OB小屋委員会が主催して雪降ろしを行いました。当初のOB担当の除雪計画は1回でした。しかし、3月の降雪が例年をはるかに上回ったこと、現役が屋久島春合宿期間中で不在であったことから、急遽電子メールで参加者を募集し、2回の臨時除雪を行いました。3度にわたる雪降ろしの日程と参加者は以下の通りです。YWV関係者以外の方にもご協力いただきました。参加者の皆様お疲れ様でした。紙面を借り御礼申し上げます。

第1回 2/12～13：鈴木(14)、小口(14)、笹倉(30)、村山(34)、渡邊(36)、伊藤(栄)(38)、細谷(38)、櫻井さん(部外)

第2回 3/25～26：竹内(25)、笹倉(30)、笠原(41)、送迎協力 鈴木(14)

第3回 4/8～9：佐木(8)、小口(14)、笹倉(30)、伊藤(31)、渡邊(36)、佐々(37)、細谷(38)、覚田(40)、笠原(41)

今季初めてOB主体で雪降ろしを実施しましたが、幅広い期が小屋に集い、夜は酒を飲み楽しく親睦を図ることができました。また、経験豊かな現地OBの協力が得られたことは有意義でした。しかし、豪雪に見まわれた場合の作業余裕、安全性、除雪効果を考えると一度に10名以上の参加が望ましいことも実感しました。

今後の課題として、限られた休日でいかに効率的に作業を進めるか、雪国出身者以外の雪降ろし経験の少なさをいかにカバーするかがポイントになります。除雪マニュアルの作成とともに、現役との共同作業を通じた技術の伝承を進めたいと思います。

一方で、まとまった費用がかかりますが、現地の業者に必要に応じて除雪を一部依頼することも予算・運用面で検討してゆく必要もあります。

来期以降も計画的除雪体制を定着させて、ともに我々の小屋を守りましょう。



除雪前



雨戸の除雪



第3回(4月)の除雪を終えて

2. 小屋維持功労者 北村千秋氏の表彰について

小屋の現地管理については五八木荘の岡田悟氏、北村千秋氏にも長年にわたりお世話になっております。98年OB総会での岡田氏表彰に続いて、北村氏の長年のご助力に対して本年10月に五八木荘で開催されるシニアOBの集いで、OB会から感謝状と記念品の贈呈を行うことになりました。



北村千秋さん

3. 小屋保守交通費補助制度の制定

小屋へのアプローチは、新幹線や高速道路の開通によって利便性が大幅に向上しました。しかし、一方では安価な夜行列車の廃止や、部員の減少に反比例する保守回数の増加によって現役部員の経済的負担が増えております。そこで、現役部員の小屋保守作業をOB会もサポートすべく、交通費補助制度を委員会で決定し、制定しました。この制度では学生の除雪活動に関わる交通実費（公共交通やガソリン代等）の50%を補助する内容となっています。

4. 今後の活動計画

昨年度はOB会全体をまず再構築した上でOB小屋委員会の基本的な枠組を築きました。しかしながら、委員会としてのまとめり・機能はこれからです。今年度は実践行動を促進し、魅力ある小屋活動を定着させる年にしたいと思います。新宿付近で開催される幹事会と同時に小屋委員会も開いておりますが、OB会の年度末（9月末）までの活動については以下の順にすすめる予定です。

(1) 組織構成・マニュアル整備

小屋委員会の構成・役割分担のあり方について、詳細に検討する。委員会の骨格となる各種細則（委員会規程、小屋管理規定）と小屋保守マニュアル（夏期保守編・冬季除雪編）の作製について話し合う。

(2) 役員追募

組織構成と活動に最低限必要な人員を取りまとめた上で役員の追募（公募3回）を実施する。

(3) 小屋整備（9月）

小屋の整備を現役とともに合同行事として行い、例年整備しきれなかった箇所を徹底し、快適な小屋作りを目指す。また、活動を通じて親睦・技術伝承を図る（後述の“苗名小屋リフレッシュ2000”の開催）。

(4) 総会準備

今年度の総会に備え、事業計画と事業報告の作製と総会準備を行う。

5. 最後に

YWVのかけがえのない小屋を皆さんで維持管理し大切にしてください。みなさまには、広くお声をかけて頂き、小屋活動への参加やご寄付をお願いしたいと思います。ご意見・要望等もよろしくお願いたします。

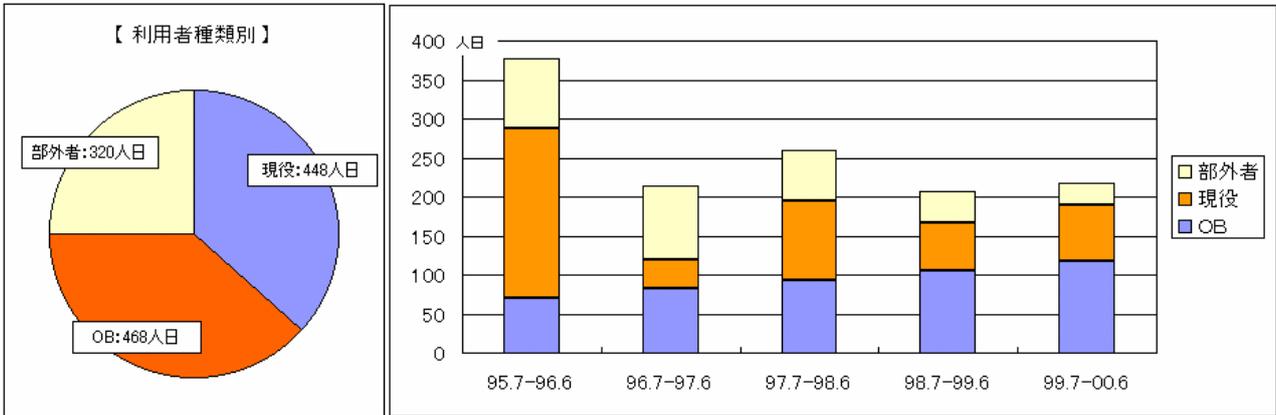
～最近の苗名小屋利用状況～

苗名小屋日誌を元に、利用のべ人数×利用日数(人日)の単位で利用状況を分析してみた。その抜粋版を以下に記す。
 苗名小屋日誌に記名されている方々、及びその文中より判読できる利用者を対象に利用者種別・目的別・季節別にまとめている。対象期間は1995年7月より2000年6月までの5年間であり、対象期間の総数を円グラフで、1年毎の期間別小計を棒グラフで示した。
 五八木で行なった98年度OB総会時の小屋訪問者は、特異値として集計に含めず。

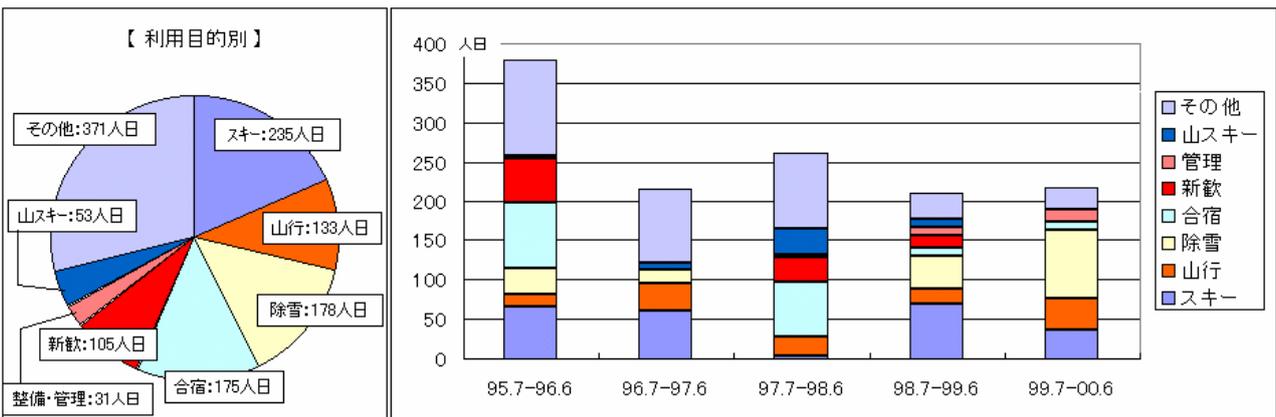
文責: YWVOB小屋委員 伊藤明広(31期)

1995.7.～2000.6.総計(円グラフ)

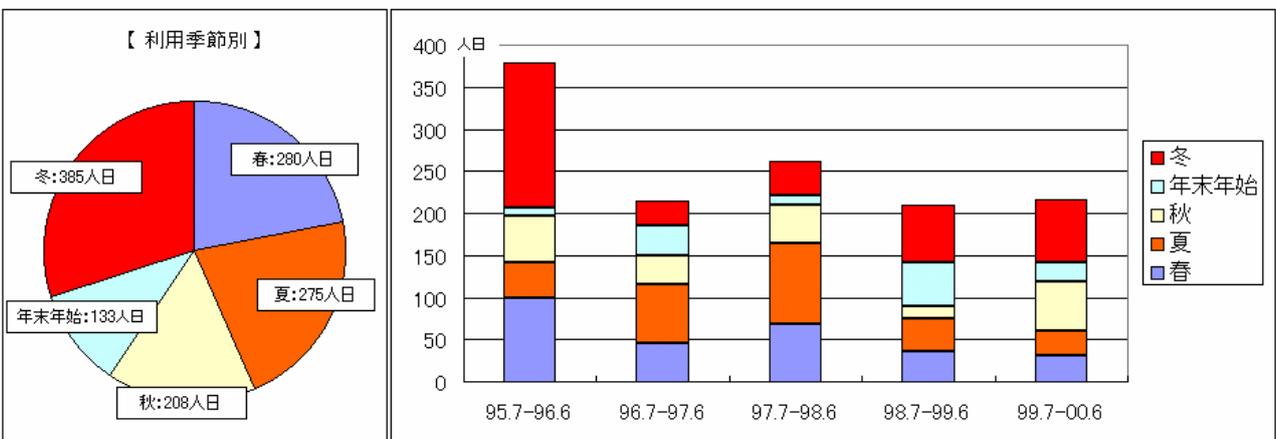
期間別集計(棒グラフ)



全体としては、現役・OB・部外者(家族含む)何れもバランス良く利用しており、極端な偏りは見られない。部外者はOB利用者の同行者が圧倒的。
 期別としては、95.7-96.6期は院生OBの冬季連泊が大きく影響している。現役は合宿や新歓等を中心に安定した利用状況にある。



整備・管理は除雪や合宿による小屋維持作業を含まない無積雪期の作業であり、蒲団等の寄付備品搬入作業を含む。近年は小屋の老朽化対策の関係で増加傾向にある。99.7-00.6期は豪雪であった為、冬季除雪作業の割合が異常に高い。



冬季+年末年始は人数的には全体の3割程度であるものの、長期滞在型が圧倒的に多い季節である為、人日換算すると円グラフが示す通り全体の4割を超えている。
 秋季は現役の合宿・新歓等がないものの、妙高・火打を中心とした秋山登山による利用が多い。この時期のみの常連も多い。

以上。

～集まれ！シニアも、ミドルも、若手も、現役も、年に一度、みんなで リフレッシュ～

第1回リフレッシュ in なえな2000

ポイ捨て時代は終わった

年輪を経ればどんな人でもどんなモノでも古くなります。しかし歴史が刻まれると次第に味わいがでてまいります。40年の年輪を経たYWVと苗名の小屋。味わいなおしませんか。

リフレッシュは心と体の手入れから

若き日の夢や仲間との喧噪を思い起こさせてくれるのは苗名、多少は傷んだ心と体、それはワンダラーと苗名小屋、みんなでしばしのリフレッシュの時を持ちませんか。

「いつか夫と来たかった」

「子供を連れてきてやりたかった」「一人でポーッとしたかった」「あそこへ行けば誰かに会える」。そんな楽しみをみんなのモノにしませんか。

癒しあえる仲間と場所

そんな場所が欲しい、そんな仲間も欲しい、贅沢です。新しい贅沢を共有しましょう。あなたのささやかな時間と汗、そして青春の心を貸してください。

<p>【開催要領】 主催/実行 YWVOB会/リフレッシュ2000実行委員会 委員長：笹倉(30)、副委員長：伊藤(31) 期間 2000年9月15日(金)～9月17日(日) [雨天順延：9/14に判断して連絡] 場所 YWV妙高苗名小屋 対象者 OB会員、YWV現役 他 募集人員 40名程度 参加費 なし (交通費は自己負担。現役交通費はOB会負担)</p>	<p>【主な内容】 1. リフレッシュ苗名小屋 日中は全員で小屋の保守作業ですので、作業しやすく汚れてもよい服装を持参ください。 2. リフレッシュワンダラー 9/15(金) 夜交歓会を開催 9/16(土) バーベキューパーティーで大交歓会</p>
--	--

【日程概要】	9月15日(金)	9月16日(土)	9月17日(日)
	10:00 五八木荘集合 又は 12:00 までに苗名小屋集合		
リフレッシュ 苗名小屋	リフレッシュインドア！ (内部清掃や簡単な大工修理など)		
	リフレッシュルーフ！ (屋根塗装や防腐剤散布など)		
	リフレッシュアウトドア！ (草刈など周囲環境整備)		
リフレッシュ ワンダラー	交歓会	老若男女みんな Back To The YWV 年一回の無礼講	大交歓会 BBQとファイヤー歌って踊って談論風発 超現実の大交歓会

<p>【参加要領】 ⇒コース A) フルコース (2泊3日) B) 一泊コース (9/15, 16 又は 9/16, 17) C) 日帰コース (9/16) ⇒申込先 リフレッシュ2000実行委員会 ①笹倉 実(30期) E-mail: sasakura@rtri.or.jp ②菅谷光雄(6期) E-mail: m-sugaya@mx2.nisiq.net 電話: 03-3736-6033 ③伊藤明広(31期) F A X: 03-5540-0499 (伊藤MG宛) ⇒申込内容 コース・名前・期・交通手段 ⇒詳細 参加申込者には後日ご案内書をお送りします。</p>	<p>【御協力をお願い】 ♪カンパ大歓迎 山小屋会計はまだ確立できておりません。参加できない方もカンパで参加してください。現金・備品・消耗品他何でも結構です。ご相談下さい。 ♪差し入れ大歓迎 リフレッシュパーティーを盛り上げるための食料・飲物・調味料・菓子・特別出前等、ご相談下さい。 ♪遊び心大歓迎 今後も小屋で使える遊び道具(楽器・ラジカセ・打ち上げ花火・カメラ・麻雀用具・ボール・歌集・YWV古文書・自転車等)、新品でなくても結構です。</p>
--	--

なえな小屋便り…小屋日誌より…

<p>1996. 8. 16 27年前に夫とはじめて会った国大山小屋。その時のノートがまだ残されていたので、驚き、喜んでいきます。フェリスWVOG村田敏子(10期村田夫人)</p>
<p>1997. 1. 1 賀正 あけましておめでとうございます。私は渡辺隆史(36期)の友人の木河と申します。都立大の山サークルに入っていますが、こんな山小屋は持っていません。伝統のある部活にはみんなこういった小屋をどこかしら持っているようでうらやましいです。</p>
<p>1999. 10. 9 家族4人で立ち寄りしました。笹ヶ峰で昼食です。「春日山」というお酒差し入れます。14期鈴木。</p>

第2章 会員便り

1」	10期	：山本 陽一
2」	30期	：竹澤 智
3」	40期	：覚田 陽一
4」	関西支部	：関西支部幹事 5期 諸角 壮弐
5」	シニアOB会	：シニア月例委員長 2期 塚原 伸一郎
6」	訃報	

1： 10期の便り [山本 陽一]

10期は昔からまとまりがなく、しかも大学紛争の後遺症が癒えず、なかなか集まることもなかったのですが、なんと2、3年前に有志が集まりました。そのきっかけを作ってくれたのは12期の山川氏（ニフティ）でした。YWVの名簿で私の NIFTY Serve（現@NIFTY）のIDを知った彼が連絡してきて一度会おうということになり、97年2月に10期：関、丸山、山本、12期：山川、榎本、左藤が、98年3月には、10期：関、丸山、大塚、山崎、山本、11期：稗田、桜井、12期：山川、榎本が集まりました。各自の近況は不明点が多いのですが、概ね下記の通りです。但し、2、3年前の情報が含まれているのでお含み置き願います。

- 伊藤允彦： 三井物産サウジアラビア事務所長。
関政彦： 富士通官公需営業本部。
山崎重信： 森永乳業市乳部販売担当。
大塚正夫： 日本IBMコンサルティング事業部、週のテニスで頑張っている。
丸山英明： 近代セールス社（雑誌社）取締役。Alaska Fly Fishing Club 所属に所属し、カナダ、アラスカに釣りに行っている。
武重孝雄： 日本水産、小金井市にいたが→「宛所に尋ね当たりません」。
佐藤一祥： 住所不明。
村田尚雄： 神戸製鋼所、新潟市にいたが→「転送期間経過」。
鈴木(現、山本)紀子： 横須賀で先生をしている。
佐藤（現、原）： 住所不明。
山本陽一： テクノフロンティア、親会社の東洋エンジニアリングが不況のため、給料カットに苦しんでいる。会社の友人、高校の同期生とあるいは単独で年間10回程度の山行をしている。百名山ブームを苦々しく思い、最近は極力有名な山を避け、人気のない藪っぼい山に登っている。昨年夏には中央アルプス南部縦走をしたが、二日間全く他のパーティーに会わなかった。

2： 30期の便り [竹澤 智]

岩手県盛岡市在住の竹澤です。職業は岩手県職員で、現在、県南の一関市まで新幹線で通勤しています。子供が小さいことなどもあって最近はずっかり山から遠ざかっており、他のOB諸氏の活動ぶりを拝見していると羨ましい限りです。

さて、今回は、毎日の通勤途上で新幹線から見ることのできる山々について紹介したいと思います。

私は毎日、盛岡駅より2駅南にある岩手飯岡駅から在来線に乗り盛岡駅まで一度戻ってから新幹線に乗り換えているのですが、その間西側前方に岩手山が見えます。まだ、谷筋には残雪が残っていますが、噴火の虞があるので、現在入山禁止になっています。新幹線で南に向かうとすぐに早池峰山が見えます。

ハヤチネウスユキソウで全国的に有名ですが、シーズンになると登山者の数が多く、最近はマイカー規制が行われています。この山は空気がよほど澄んでいる日にしか見えません。花巻市あたりから西側前方に焼石連峰が見えてきます。夏油温泉から焼石岳を経て石淵ダムを抜ける縦走コースもあるのです

が、私は石淵ダムからのピストンでしか登ったことがありません。就職し、一人で山に登るようになってから縦走はなかなか難しいのです。

水沢江刺駅を過ぎるとトンネルがしばらく続きますが、一関市の手前で急に視界が開けてきます。一関市は洪水の常襲地帯であり、治水が街づくりに直結しています。北上川と堤防の間にある田んぼは一度川があふれると遊水池として街を守る役目を果たします。新幹線はそのなかを走っていくのです。その田んぼのずっと奥には栗駒山が見えます。帰路につくころには、夕日の中に黒いシルエットとなって私を見送ってくれます。自然には恵まれているというか、それしかないような環境ですから、これらをもっと有効に生活の中に取り入れていきたいと思っています。



北上川を挟んで一関市を遠望する

3： 40期の便り [覚田 陽一]

私はYWVに大学2年の時に入部しました。39期の後藤が、工学部電子情報工学科で同じクラスだったのでそれを頼って入部しました。活動方針の違いにより、同期の部員が退部してしまい、執行部は39期と一緒にとりました。40期分の執行部が抜けたことで、41期は2期連続で執行部をとることになり大変だったと思います。今年は入部者が4人であり、部もだいぶ安定してきたように思えます。

今年に入ってから活動としては、4月に雪下ろしに小屋に行き、いろいろなOBの方と接することができました。山スキーを使って仙人池に向かうOBの方々の姿を見て、僕も将来やってみたいと思いました。雪下ろしは1日で終わることができ、残りの1日はスキーを楽しむことができました。スキー場の営業の最終日なので、所々で除雪され道路がむき出しになっていたり、この時期の小屋は初めてだったので新鮮でした。就職活動中で気分の重い日が続いていましたが、いい気分転換になりました。

最近研究室が忙しくてなかなか山へ行く時間ありませんが、あと半年は大学にいますので、機会があれば部室に顔を出して現役と関わっていききたいと思っています。

4： 関西支部の便り [5期 諸角 壮式]

今年(H.12)の5月下旬、2期宮崎さんより、OB会報復活第2号(通算17号)を出すので原稿を書いて送るよにとの連絡がありました。第1号(通算16号)を読んだ記憶がありませんが、メールリンクで苗名小屋のこと、月例山行のこと等、OB会の状況も自動的に入ってきますので、7期下村さんのことなど悲しくもありまた残念なお知らせとともに、皆様が元気にお過ごしの様子も読んでおります。

さて、関西OB会ですが、昭和40年代より長年幹事役を勤めていただいております、2期宮崎さんが静岡に転勤のため、私が後任ということに、昨年12月の例会(@大阪JR駅ビル豆腐料理専門店。参加者：3期渡辺、5期三宅、5期早藤、5期所(旧姓で記載)、5期諸角)で決まりました。

幹事役の役割は何はさておき行事を企画することだ、とのことで下記を行いましたので、記録に留め下さい。

《第??回* YWV関西OB会》

*数十回目になると思うが記録がありません。

- 日時：平成12年4月15(土)～16日(日) 場所：舞鶴
- 参加を呼びかけた方々：名古屋以西在住の方々50数名(H11年度の名簿よりピックアップ)
- お返事をいただいた方々：文末を参照ください
- 参加した方々：3期渡辺(関西支部長)、5期三宅、5期所、5期諸角、計4名
- 活動記録：

4月15日(土)

- 15:00頃 渡辺さん来舞、
- 15:30頃 三宅さん来舞
- 16:00頃 出発。吉田(舞鶴市内)のしだれサクラ見物。それは見事でした。石垣の上にあるため、満開のサクラが石垣の下5m位までしだれておりました。
- 18:00頃 帰宅(山の家の手配も考えましたが、参加人員が少ないので諸角自宅で開催)。後は飲み会。

4月16日(日)

- 06:00頃 三宅さん帰阪(ゴルフのため。舞鶴より大阪まで車で1:30位です)
- 10:00頃 出発。車で大浦半島一周(舞鶴湾の東側を囲う半島。標高550m。関西電力が石炭火力発電所を建設中のため、立派な道路と、林道で1週できます。頂上付近は森林公園になっています)。
- 13時頃 金剛院(舞鶴市内)へ。千年栢(カヤ)、重文の3重塔など見物。
- 15時頃 帰宅。
- 16時頃 渡辺さん帰阪

以上、ご苦勞様でした。

- お返事をいただいた方々のお便り(要旨のみ。勝手に要約しましたが、お許し方。)

- 1期 佐藤文雄さん…まとめ役でありました宮崎幹事の留守の間如何?とそれとなく心配しておりました。秋口にでも淡路島(花の万博開催中)に皆で行きませんか。
- 2期 西村郁代さん…今年も梅の香のときめきにはじまり、白川の梢を見てぞなぐさむと、山桜の咲くのを待っております。
- 4期 斎藤伸一さん…現在シンガポール在住。星港に来る機会があれば、e-Mailで連絡下さい。
会社：The Polyolefin Company (Singapore) Pte. Ltd e-Mail：Saito@tpc.com.sg
- 5期 矢島拓自さん…還暦を迎え、自分だけはと錯覚することもなく、人並に目や髪などに劣化が認められます。来年企画があれば参加したい。
- 16期 岩田達志さん…仕事が忙しく出席できません。皆様によろしく。
- 33期 木村堅一さん…新年度の土日出勤のため欠席。滅多に登山にも行かず、体力の衰え…。シーカヤックに挑戦しようと思っております。
- 33期 横井英記さん…H12.4.10に33期唯一の女性部員だった原さんが結婚しました。関西在住の33期全員が集まりYWVらしい飲みっぷりで、京都で大騒ぎをしました。
- 34期 長谷川義高さん…案内をありがとうございます。
- 35期 吉田啓史さん…関東の方ではメールの普及で交流が活発なようです。関西でもこうした場が生まれるとうれしい限りです。受験勉強に専念している身ですので欠席とさせていただきます。次回は是非参加したいと思っております。

- 参加者の近況

- 3期：渡辺さん 今年6月末で定年退職の予定とのことです。
- 5期：三宅さん 会社はもとよりゴルフに忙しい毎日のようです。
- 5期：所さん・ワンゲル時代同様にアチコチ出歩いているようです。
- 5期：諸角…秋のOB会で皆様にお目にかかれるのを楽しみにしております。

以上、YWV関西OB会報告でした。

今回開催案内が届かなかった西日本に在住・転勤の方はぜひご一報ください。次回の案内をお送りします。

以下は舞鶴のPRです。

今年2月に「雪だより from 舞鶴」ということで、皆様にe-mailを発信しましたが、16年振りの大雪を堪能しました。市内でカモシカ、サル、アナグマ、等々の動物、白やピンクのイカリ草、ブルーのヤマドリ草、崖一面に咲くスマレ等々の植物が楽しめるそうです(これは所さんの話)。天然物のシイタケも生まれて初めて採りました。ワングル時代にヒラタケとか、ナメコを採ったことはありましたが、シイタケは初めてで、その夜は焼肉とともにソティにして楽しみました。舞鶴近辺にお越しの節は、ぜひお立ち寄りください。お待ち申しております。

5 : シニアOB会の便り”シニア月例山行会報告“ [2期 塚原伸一郎]

【第2次月例のスタート】

かつて、OB会発足後4年ほどたった65年から69年にかけて4年間、月例ワンダリングというものがあり、通算37回のワンダリングを行いました。そして30年を経た99年1月「シニアOB会月例山行」がスタートしました。

【規定と委員】

開始にあたり、規定及び委員を定めました。シニア各期(1期~8期)1名の委員と若干のアドバイザースタッフを定め、毎月第4土曜日を定例としました。

【1999年総括】

月例山行は年初1月からスタートし、10月が毎年恒例のシニアOBの集いのため、12月までに11回計画されました。計画された山行は、(1月)高水三山、(2月)四阿屋山、(3月)矢倉岳、(4月)鬼ヶ岳、(5月)鳴神山、(6月)浅草岳、(7月)赤城山、(8月)谷川岳、(9月)高尾山、(11月)三頭山、(12月)三ツ峠山です。8月が荒天により中止となった為(当番幹事1期)、実施されたのは10回です。

1999年の参加者状況 全10回の延参加者:238名(1回あたり23.8名)、女性参加者の比率:38%

対象者が140名ですので、平均参加率は17%になります。また女性会員の参加者がかなり多いことにお気づきと思います。特に6期は女性上位で、6期女性参加率は実に70%という圧倒的多数です。

6月は1泊で魚沼の浅草岳をめざし、最多数の33名が集まりましたが、生憎の雨のため登頂したのはわずか5名でした。前日には16名が守門岳に登っており、雨でも皆さん同期会を開いたり、温泉を楽しんだり十分堪能した様子でした。9月以降は好天に恵まれ、毎回快適な山行を楽しみました。

7期の下村氏、8期の池原氏はいつもバーナーを持参して、暖かいコーヒーや豚汁、うどん等を提供してくれます。また2期宮崎氏のおしるこも名物になりました。そして1年が終わり、振り返ってみますと、3名の会員が皆勤賞受賞の榮譽に輝きました。3期腰塚氏、7期下村氏、8期池原氏の面々です。

【2000年前半】

今年に入っても引き続き毎月開催されています。毎回30名前後の参加を得て益々盛況です。2000年前半の山行計画は(1月)十国峠、(2月)鐘ヶ嶽、(3月)扇山・百蔵山、(4月)鳴虫山、(5月)天城山、(6月)平標山です。

4月に、月例山行の中心人物だった7期の下村氏を失い、会員には相当のショックでしたが、追悼山行となった鳴虫山には29名が参加し、頂上で黙祷、弔辞、合唱をして氏を偲びました。5月は天城山に35名が集まり大記録達成です。この時は9ヶ月ぶりに雨となり、当番幹事1期の面目躍如というところでした。

毎回のようになり新規参加者があり、この盛況は当分続きそうです。

物故会員：森 正之（8期）

逝去年月日：平成11年11月22日

享年：55歳

死因：病死

履歴：昭和43年横浜国大ワンダーフォーゲル部と同校工学部造船工学科を卒業し、石川島播磨重工(株)に勤務。YWVOB会には顔を出さなかったが、自然を愛すること多大で、近隣の円海山緑地などの散策、菜園・園芸を楽しんでいた。ロマンチストで学生時代は8期の良きムードメーカーであり、その人柄を慕うものが多かった。（報告者：8期池原盛彦）

物故会員：下村弘道（7期）

逝去年月日：平成12年4月1日（午前2時頃）

享年：56歳

死因：心筋梗塞

遺族：下村蓉子（10期）、一男一女

履歴：横浜国大ワンダーフォーゲル部卒業。同校工学部機械工学科中退後、一貫して(株)モリテックに勤務。取締役。現役時代はマネージャーとして活躍。高校時代から山岳部で育った山男。体力頑強。口数少なく、山の唄に出てくるようなやさしい山男。やや音痴だが声は大きいのでいつもエールの発声役を勤める。卒業後、OB会の期幹事及び、シニアOB会月例山行委員会の委員として活躍。月例山行は連続13回で途絶えた。趣味は山歩きと写真（特に山の花の写真）。没後、彼の机の廻りを見たら山の本・雑誌と、山・花の写真しかなかった。経済書・経営書の類は殆ど見当たらなかった。（報告者：7期服部七郎）

第3章 現役便り

43期 赤井 研樹

< 新入生5人(確定・山行経験有) >

栢沼優二 工学部物質工学1年

杉浦康之 工学部知能物理学科1年

志賀圭 経済学部経済システム学科1年

野口悠 教育人間科学部学校教育学科1年

野島太郎 工学部物質工学科1年

以上の5人を連れて新歓山行を行いました。

一次は秦野・大山を日帰り、二次は八ヶ岳(赤岳)を1泊2日で行いました。全員経験者であり、天候にも恵まれ、出だし好調といったところです。

OB・OGの皆様も暖かく見守ってくださるようお願いいたします。



写真3点：新練二次の八ヶ岳

第4章 メールグループの運用開始について

総務委員会 34期 影井 康弘

この度、YWVOB会のメールグループを新設しました。これは e-group という世界最大の会員数を誇る無料メーリングリストのシステムを活用しています。

メールグループとは、[ywvob@egroups. co. jp]というアドレスにメールを送るだけで、登録されているOB会員全員へメールが配信されるシステムです。今後、OB会の広報手段として積極的に利用したいと考えていますので、メールアドレスの登録*を宜しくお願い致します。

*YWVOB会会員専用のメールグループですので、登録された人 (=管理者(影井)によって承認された人) のみ利用が可能となります。第三者の参加を防ぐため、メールアドレスの所有者が特定できない場合に影井より確認の連絡をさせていただく場合がございます。

登録の方法は以下の通りです。いずれかご都合のよい方法をお選びください。

【A】 (ywvob-subscribe@egroups. co. jp) へメールを送信する (表題、本文不要)。

→管理者(影井)が承認の処理をしたら、使用できるようになります。ただし、メインページ(YWVOB会専用のホームページ)を利用するためには、後ほど「e-group のユーザー登録」をしていただく必要があります (下記【C】と同様の作業です)。

【B】 管理者(影井)へ連絡する (skagei@elct. eng. himeji-tech. ac. jp)。

→アドレスがOB会名簿に記載されていない可能性がある場合は、「期とお名前」を明記の上、影井にメールでご連絡下さい。登録手続きを致します。【A】同様、メインページの利用にはユーザー登録が必要です。

【C】 YWVOB会メインページ (<http://www.egroups.co.jp/group/ywvob>) からの登録。

→①メインページを開いた右方の「参加する」を押してください。ログイン画面が出てきます。

→②「ユーザー登録がまだの方」というところから入り、指示に従って進んで下さい。

→③この作業により、管理者(影井)宛に参加申込のメールが届きます。管理者(影井)が承認することによりメールグループへの参加が可能となります。

メールグループに加入すると、OB会関係の情報をいち早く確認できる上、会員同士の山行計画の立案や山行報告、OB会活動への意見表明や、議案の投票といったことまで様々な使い方が可能です。

《メールグループで出来る内容の例》

①グループアドレス (ywvob@egroups. co. jp) へメールを送るだけで、メンバー全員にメールを送れる。

→これまでのメーリングリストと同様の基本機能です。

②過去にやりとりされたメールを、まとめてYWVメインページで読むことができる。

→メールの配信を希望しない場合は、メールを受け取らない設定とし、メインページ上でメールの閲覧や送信をすることができます。

③共有スペース (20MB) が用意されており、写真やOB会関連の書類等をメンバーに公開できる。

→OB会や現役の活動状況などを順次追加していきます。もちろん皆様もファイルを掲載できますので、山行報告や写真をOB会員に広く見てもらおうことが出来ます。

皆様のメールグループの有効活用により、OB会が一層魅力的なものになることを期待しております。お分かりにならないことがあれば、影井 (skagei@elct. eng. himeji-tech. ac. jp) までご連絡下さい。

第5章 各種山岳保険について

総務委員長 34期 田村 顕洋

山に長く登っていると、一度か二度はヒヤッとする体験をするものです。また、実際に遭難した場合の捜索費用の大きさは、皆さんご存知のとおりです。このため、山の難度にかかわらず、登山中の事故を対象とした保険に加入しておくことが望ましいことは、論を待ちません。

通常の障害保険等では、登山は一般に危険なスポーツとみなされ、ダイビングなどと並んで登山中の事故は免責事項となっている場合が殆どです。ただし、ハイキング程度のものであれば、保険が適用される場合もありますが、いずれにしても、捜索費用は保険対象外です。

そのため、登山中の事故と捜索にかかる費用等を対象とした保険が、山岳団体などから発売されています。ここでは、その中から、代表的なものをご紹介しますので、安全・安心な登山の一助として下さい。また、以下の情報は「<http://tele.hidanet.ne.jp/%7Egifualps/mokuji.htm>」を参考にしており、金額等に変更がある場合がありますので、詳しい内容は、各団体の事務局へお問合せください。

■ 日本山岳協会／問い合わせ 03-3481-2396

1. 山岳遭難共済

《主な特徴》 所属山岳団体に登山計画書を提出しており、団体が承認したものに限り、山岳登はんとして共済制度の対象とする。また、海外における山行中は、死亡、後遺障害事故のみ担保される。

	一般共済				スーパー共済			
	A	B	C	D	A	B	C	D
死亡・後遺障害	150万円	150万円	150万円	150万円	200万円	200万円	200万円	200万円
入院保険金日額			2,000円	2,000円			2,000円	2,000円
通院保険金日額			1,000円	1,000円			1,000円	1,000円
遭難捜索費用	150万円	150万円	150万円	150万円	200万円	200万円	200万円	200万円
個人賠償責任		1億円		1億円		1億円		1億円
保険料	5,760円	6,420円	10,920円	11,580円	7,680円	8,340円	12,840円	13,500円
山行の規定	自宅出発から帰宅まで							

2. 特別共済

《主な特徴》 中高年ハイカー登山者(日帰りか山小屋宿泊程度で、軽装備で本格的な登山用具を用いない登山者)*向け。

※注 「中高年ハイカー」登山であっても、上記の趣旨からはずれる登山(難度の高い登山)は、含まれない。

年間保険料	3000円
死亡	300万円
後遺障害	300万円上限(程度による)
捜索救助費用	300万円
山行規定	自宅出発から帰宅まで

■ 日本勤労者山岳連盟の労山遭難対策基金／問い合わせ 03-3260-6331

《主な特徴》 加入資格者は日本勤労者山岳連盟に加盟する団体、及びその所属会員。海外登山、トレッキング中の事故にも適用される。無届山行や、事故発生報告が事故後30日以上経過している場合は給付金は支払われない。

保険料	個人・1口 1,000円(10口まで任意加入できる) 団体・1口 1,000円(5口まで任意加入できる)
死亡・後遺障害	払込金の200倍
入院(日額)	1日あたり4,000円
通院(日額)	1日あたり4,000円
捜索費用	払込金の200倍
山行の規定	登山口から下山口まで

■山岳保険センター／問い合わせ 03-3755-9718

	【山岳保険】 山岳保険山岳中(ザイル、ピッケル、ハンマー、アイゼン等の登山用具を使用するものを含む)並びに就業中以外の日常生活のけがを補償する。			【ハイキング保険】 ハイキング、沢登り、山スキーなど手軽な山登りの場合(山岳保険のように本格的な道具を使用しない場合)、並びに就業中以外の日常生活のけがを補償する。	
	A	B	C	A	B
死亡・後遺障害	124万円	176万円	176万円	105万円	207万円
入院日額			2,000円	1000円	1800円
通院日額				500円	1000円
個人賠償	1,000万円	1,000万円	1,000万円	1000万円	1000万円
遭難・捜索費用	100万円	150万円	150万円		
救援者費用				500万円	500万
年間掛け金	7,000円	10,000円	13,000円	5000円	7000円
山行の規定	自宅出発から帰宅まで				

■千代田保険センターの山岳保険／問い合わせ 03-5453-4480

コース	基本プラン			標準プラン				交通事故追加補償プラン			
	A	B	C	D		E		D		E	
捜索費用	100万円	100万円	100万円	100万円		200万円					
死亡	180万円	180万円	220万円	障害事故 180万円	交通事故 400万円	障害事故 240万円	交通事故 460万円				
入院		1,000円	2,000円	障害事故 1,000円	交通事故 3,000円	障害事故 2,000円	交通事故 4,000円				
保険料1年間	8,000円	10,000円	13,000円	12,000円		20,000円					
保険料2年間	14,000円	17,500円	23,000円	21,000円		35,000円					
保険料3年間	20,000円	25,000円	33,000円	30,000円		50,000円					
保険料5年間	32,000円	40,000円	52,000円	49,000円		80,000円					
山行の規定	自宅出発から帰宅まで										

《主な特徴》基本プラン:死亡・後遺障害について、山岳登山*中のみならず日常生活上の障害事故も補償する。

標準プラン:基本プランの内容に加え、傷害による入院についても補償する。

交通事故追加補償プラン:標準プランの内容に加え、交通事故傷害による補償を加えたもの

※ここでいう山岳登山とは、アイゼン、ピッケル、ザイル等の登山用具を使用する岩登り、積雪期の登山または特殊技術を要する沢登り等を含む(ハイキング中においても、縦走中の転滑落等の山岳特有の状況を担保する)。また、遭難とは山岳登山の行程中における転滑落、吹雪、風雨、雪崩、落石、寒気、道迷い、高山病(医者の診断書が必要)等、山岳登山に特有の事故に起因するもの。

第6章 規程の制定について

幹事長 29期 禅 知明

昨年の総会で改正された会則第18条、第85条、第92条、第93条、第94条に基づき下記の3規程を公布しました。名称と内容は以下の通りです。

1. 地方支部運営規程 *地方支部の設置基準を明確にしました。
*本部から活動補助費を交付することにしました。
2. 会計規程 *会計の基本方針、適用範囲、会計単位等を明確にし、それぞれの会計責任者を決めました。
*現役の預り遭難対策費も会計の1単位として管理することにしました。
*帳簿組織、金銭処理、資金運用、予算制度、決算処理等について明確にしました。
3. 監査規程 *監査制度、監査役は1999年11月の総会で新設されました
*監査は会計監査と業務監査とを行なうものとししました。
*会計監査は会計単位毎に行い、監査報告書を作成し、総会で報告するものとししました。

各規程とも、（制定）2000年4月29日（於：拡大幹事会）
（公布）2000年5月11日
（施行）2000年1月1日（遡及適用） ・ ・ となります。

1999年11月の総会で改正された会則では、各業務の運営細則として、各規程を制定することができるとされました。会計規程以下9種の規程が予定されております。中でも特に会計的要素の強い3規程が今回制定公布の運びとなりました。なお、規程の制定は拡大幹事会の承認によります。

会計関連のこの3規程は、今2000年事業年度（1999年4月1日～2000年9月30日）から適用いたしたく、施行を2000年1月1日と致しました。

なお、「文書（管理）規程」は既に立案され、現在審議中です。また、「苗名小屋保守交通費補助制度」がOB小屋委員会の決議により、2000年4月20日付で制定公布されております。これは、苗名小屋の保守（主に除雪）の為に現役部員が出動した場合、交通費の一部を援助するというものであります。

ちなみに、制度、基準、要領、手続等の取り決めは規程に準ずる位置づけをされますが、その適用の範囲、効力については規程とほとんど変わりません。

第7章 第一回OB会山行のご案内

総務委員長 34期 田村 顕洋

この会報でも紹介されているように、シニアOB会では、「月例山行」として毎月様々な登山が企画されており、きわめて盛況のようです。

我々は、山を媒介に集まった仲間たちです。世代を超えてOBと一緒に山に登ることで、会報を読んだり、総会に出席するのは比較にならないほど、OB同士の繋がりを実感できるのではないのでしょうか。

YWVOB会もようやく体制が整いつつあることもあり、今般、総会の翌日に第一回のOB会山行を企画することといたしました。

詳細（装備、昼食など）は、総会出欠締め切り後に追って連絡させていただきます。

日 程：10月29日（日） 総会の翌日

コ ー ス：[北八ツ]北横岳（コースタイム計 2:10）

ピラタスロープウェイ山頂駅-(1:00)-北横岳ヒュッテ-(0:10)-横岳-(0:10)-北横岳ヒュッテ-(0:50)-山頂駅

コース概要：坪庭と呼ばれる山頂駅周辺は、溶岩の台地にハイマツや針葉樹が点在する自然の日本庭園。そこからよく整備された登山道で樹林帯を登ると、1時間ほどで北横岳ヒュッテに到着する。北横岳ヒュッテから横岳頂上まではすぐ。頂上は風は強いが見晴らしはよく、すぐ北隣には蓼科山が大きく鎮座し、南側には、八ヶ岳全景が広がる。なお、ピラタスロープウェイは高低差約500m、所要時間は約9分。

《編集後記》

前回の田村氏(34期)に続き、今回は藤井(33期)が会報編集担当をやらせていただきました。原稿でご協力いただいた皆様、作業を手伝っていただいた皆様ありがとうございました。前回、今回ともに事務的なことを追いかけるのに精一杯の感はぬぐえませんが、次回以降は遊び心を加えながら作っていったらと思います。

会報も、総会運営や小屋保守などと同様に、限られたメンバーが仕事を抱えつつ手弁当でやっております。実際の作業は東京がメインですが、少しでもお時間をいただけたら幸いです。例えば近況、登山や旅行、立ち寄り湯の報告など、原稿をお願いした際にはご協力お願いいたします。また、「こんなテーマを取り上げて欲しい」といった提案があればぜひお寄せ下さい。

夏真っ盛りですが皆様も熱射病、熱疲労にご注意ください。

《役員から一言》

顧問・小屋委員 菅谷光雄(6期)

「小屋委員会広報担当をやります。身体障害者1級の資格をもっておりますので、永久に歩けざるワンダー代表の目線を導入します。必ずや皆様の将来に役に立てると信じております。」

小屋副委員長 伊藤(31期)

「小屋委員となりました31期の伊藤です。小屋会計、及び再建検討を主に担当致します。現役、OBの皆さん方が苗名小屋について色々考える一助となるよう努めますので、ご協力の程、よろしく願い致します。」

小屋委員 細谷(38期)

「小屋委員になりました。小さな車ですが、関東圏から参加します。」

《YWVOBこよみ》

(年間スケジュール 平成12年1月～12月)

1/22(土).....シニアOB会月例山行	7/15(土).....夏の幹事会(総会詳細決定)
2/5(土).....新年幹事会	7/22(土).....シニアOB会月例山行
2/11(金)～13(日)..第一次雪下ろし	8/6(日).....会報、総会案内発送
2/27(日).....シニアOB会月例山行	8/26(土).....シニアOB会月例山行
3/25(土).....シニアOB会月例山行	9/9(土).....小屋委員会
3/25(土)～26(日)..第二次雪下ろし秋の幹事会
4/8(土)～9(日)...第三次雪下ろし	9/15(金).....総会出欠締切、本予約
4/22(土).....シニアOB会月例山行	9/15(金)～17(日)..小屋合同整備(リフレッシュ2000)
4/29(土).....春の幹事会	9/24(日).....シニアOB会月例山行
5/27(土).....シニアOB会月例山行	10/14(土)～15(日)..第12回シニアOBの集い
6/11(日).....初夏の幹事会	10/28(土)～29(日)..2001年度総会、OB山行
6/24(土).....シニアOB会月例山行	11/25(土).....シニアOB会月例山行
6/下旬～.....小屋委員追加募集	12/23(土).....シニアOB会月例山行
7/15(土).....小屋委員会(合同整備)	

YWVOB会 会報17号

平成12年8月6日発行

発行 行：横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

発行責任者：嘉納 秀明(1期)

編集責任者：藤井謙一郎(33期)

編集局：03-5228-3597 / ken-fujii@mc.newweb.ne.jp